

10s 20s Yモード



3年生の時に作ったバンド「Jagaimo」(ジャガイモ)のメンバーと(右から2人目が絵里香さん)。朝の集会や卒業式でも大活躍



フィンランド語の授業で、グルーブ討論のテーマは「白」という言葉が与えるイメージは何色?。白に決まってい

離別の高校卒業試験は、机にかじりついて合格。04年から同国のオウル大で学んでいます。

「私が中学のときに自分を発見して苦しんだように、悩んだり苦しんでいる人に読んでもらえたらと思います。本来の自分を思いだしたり、とりもどすきっかけは、だれにもある、と伝えたいと思っています。」

フィンランドを知ったのは小学生の時でした。偶然読んだ『たのしいムーミン一家』。それまで読んだ物語とは違う世界にひかれ、北海道フィン

指先に水色のマニキュア。耳に小さな金色のピアス。相手をしっかりと見つめる瞳が印象的な高橋絵里香さん(22)。3月に『青い光が見えたから』16歳のフィンランド留学記(講談社)を出版しました。

中学を卒業後、単身北欧の国フィンランドへ渡り、高校生活を送った女性がいま。『学力世界』で知られるフィンランドでどんな体験をしたの? このほど留学記を出版しました。

森と湖とムーミンと

自然に笑える 自分になれた

関係ごと細かな校則、笑いながら生徒をなぐったり、齟齬で教卓をけり倒す先生……。『小学生の時は活発で積極的だったのに、気が付くと人の顔色をうかがい、一人で行動できないようになってし

ランド協会にも加入。中学を卒業したら、フィンランドの高校に行くことを決めました。公立中学校では「自分が自分でなくなる」という言葉が、へいそく感に苦しみました。生徒同士の厳しい上下

「娘の目から光がなくなり、学校から帰れば、こ

んこんと眠りつづける姿に、なんとか元気を取り戻してほしい。そればかり考えていました。そんな中学2年の時、父がフィンランド旅行を提案。旅先で、絵里香さんを受け入れてくれる高校が見つかりました。



フィンランド留学記を出版 高橋絵里香さん(22)

白って何色? 絵里香さんが体験した高校の授業や試験はユニークでした。ある日の国語の授業では、グルーブ討論のテーマは「白」という言葉が与えるイメージは何色?。白に決まってい

る。いや、生徒の答えは『桃色』『うすい茶色』……。白と決めたはずなのに、その言葉を聞いた感覚を思い浮かべ、想像力をかきたてて考えます。「教科書はあまり使わず、教室がわいわいしている和やかな雰囲気が好きでした。試験でも順位をつけられたことはありません。一人ひとりが個性が評価されました」

「人はい人ひとり個性があって、それぞれ違うんだということを感じることが理解しているところ」——フィンランドの人の温かさを、絵里香さんはこう表現します。それは、こんな教育がはぐくんできているのかもしれない。

「私が中学のときに自分を発見して苦しんだように、悩んだり苦しんでいる人に読んでもらえたらと思います。本来の自分を思いだしたり、とりもどすきっかけは、だれにもある、と伝えたいと思っています。」

「文化の紹介」と思って読んでいくうちに、いつの間にか私自身が勇氣づけられていました。この本を読んだ人から、そんな感想が寄せられています。本に込めた思いは、私をありのままに受け入れてくれる皆さんの人に出会って、自分の居場所を見つけた感じだと思います。



1年生のときの絵里香さん。高校の校舎前で友達と(左上と右下の写真は高橋さん提供)